

「平和をつくる者」 (要旨)

聖書箇所：マタイ 5:9

M.C.ハリス (1921年5月8日, 74歳)

来日に際してのエピソード

【1】平和をつくる者

「平和」に生きたい。それは万人の願いです。山上の説教が「平和を願う者は幸い」であれば、躊躇なく同意できます。しかし主イエスが語られた内容はそうではありませんでした。平和に生きる者でも、平和を望む者でも、はたまた平和を守る者でもなく、「平和をつくる者」でした。この言葉が意味することは、単なる穏やかさではなくて、積極的なものを意味します (ウリヒル)。平和な毎日を望む事なかれ主義ではなく、能動的に「平和をつくる者」の幸いが語られていたのです。

【2】平和の意味

「平和をつくる者」と言っても、時代や国、生活の背景が変われば、捉え方も異なってきます。平和活動家を思い浮かべる人もいれば、戦争で勝利に導いた英雄を思い浮かべる人もいます。

一世紀のローマ帝国は、皇帝アウグストゥス (ルカ 2:1) を「平和をつくる者」と宣伝しました。彼は戦争に戦争を継ぐ状態を平定し、帝国に経済的繁栄をもたらしました。山上の説教は、ローマの意向に歯向かわない限り保障される「パックス・ロマーナ (ローマの平和)」時代に語られました。主イエスの「平和」は、「ローマの平和」を超える内容でした。特定の国家や民族に限定せず、すべての者に対する「平和」を説いたからです (参照: マタイ 5:44-48)。

【3】キリストの平和

「平和」(エイレネ)は、調和、一致、和合という

意味を持ちます (BDAG)。何らかの原因によって争い合う両者を一つに繋ぎ合わせるのが「平和」です。けれども現実には、「平和」を求める者同士が対立しいがみあっています。自分が一番正しいと考える者同士の対立です。一致を保つためには、相手が自分の過ちに気がつくことが必要と考えます。残念ながらお互いにそう考えているので、「平和をつくる」ことはできません。「平和をつくろうとする人は、まず自分自身の心の中に平和を生み出さなければなりません」 (ステーブソン・メティカフ「闇に輝くともしびを継いで-宣教師となった元日本軍捕虜の76年-」

メティカフ宣教師が言う「自分自身の心の中に平和」は、どのように生み出すことができるのでしょうか。

まず、私たちが神に敵対する者であったことを認めることです。「あなたがたは、自分の背きと罪の中に死んでいた者であり…生まれながら (神の) 御怒りを受けるべき子らでした。」 (エペソ 2:1~3)。聖書は、私たちの心の中には争いの種や、高慢さ、自己中心があることを教えます。主イエスは、そうした私たちが、神と和解できるように、十字架でご自分の血を流されました (参照: ローマ 5:1-11, エペソ 2:14-16)。私たちは、神と和解し、神が与える平和を自分のものとして受け取ることが必要です。神と和解し、「自分自身の心の中に平和」が生み出された時、人と人との間に平和をつくり出すことができます。

主イエスは「平和をつくりだす者」を「神の子どもと呼ばれる」と言われました。平和の神のご性質をあらわす者は、神の子どもと呼ばれます。

▷あなたは、キリストの平和を受け取っていますか？

